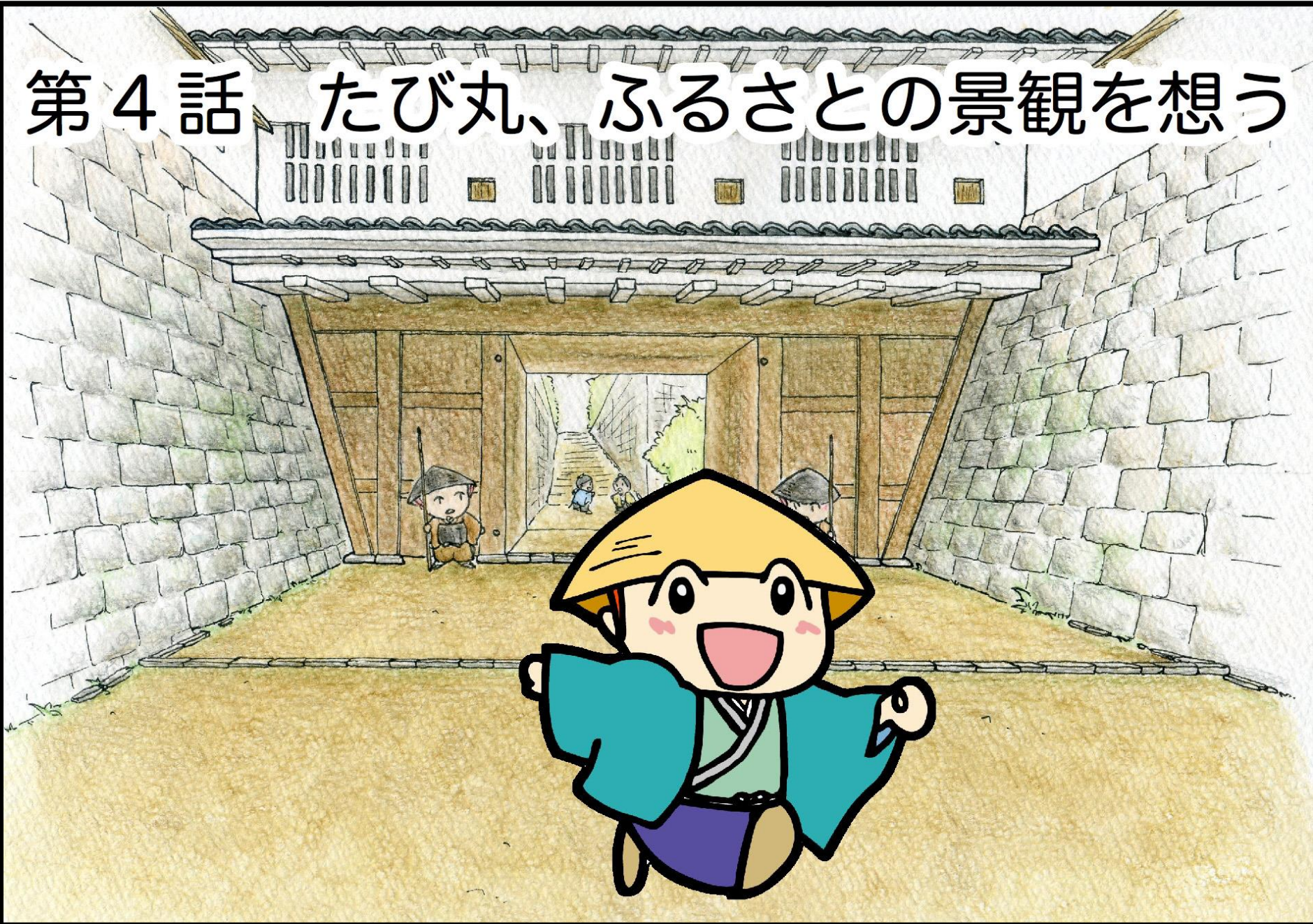


# 第4話 たび丸、ふるさとの景観を想う





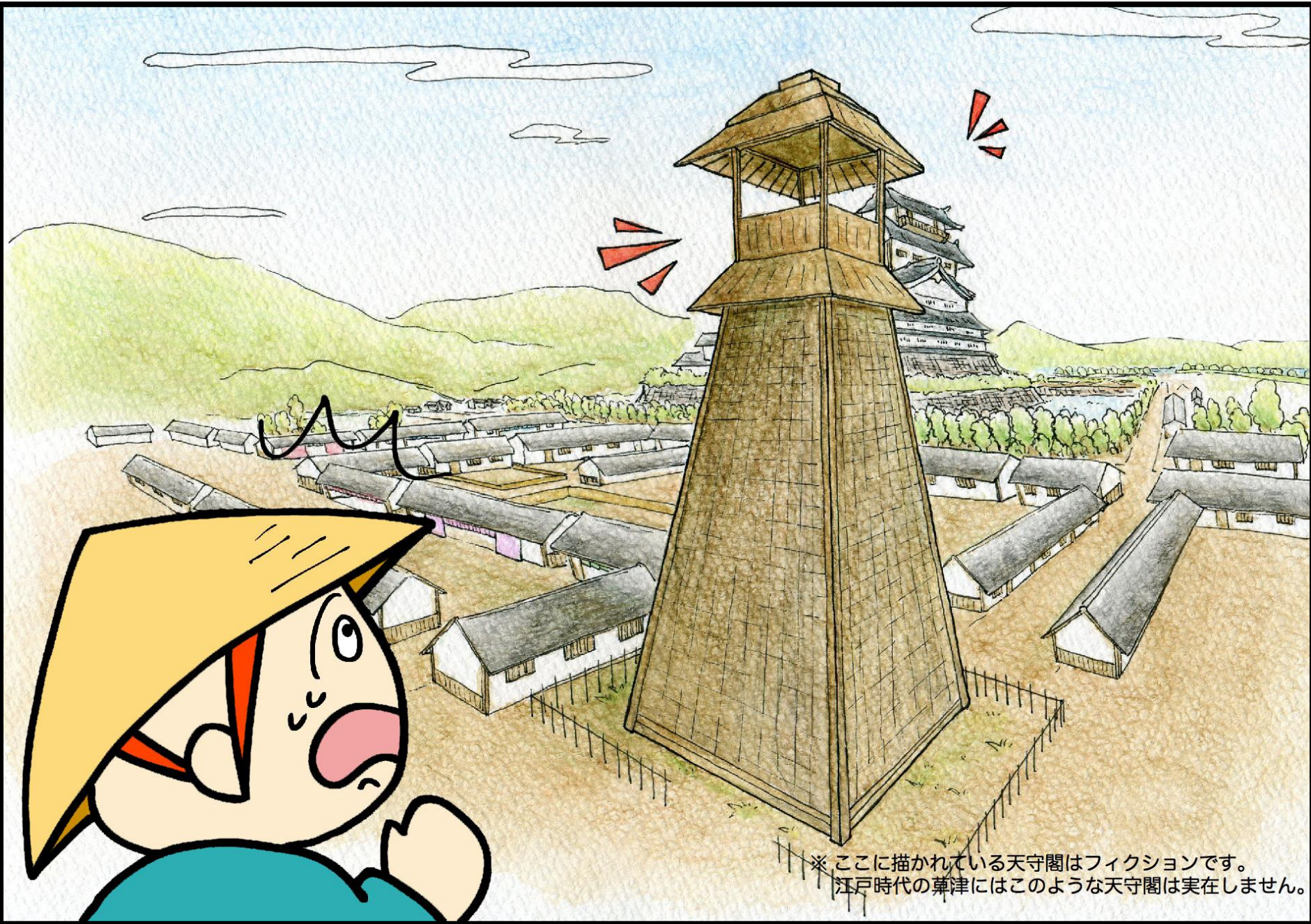
殿様から<sup>じきじき</sup>直々に『まんじゅうを食べたい』とお招きがあったばかりか、美味しいと喜んでくださった！これからも、美味しいまんじゅうをお届けできるよう頑張らねば！  
そうすれば、愛しのお藤さんにも会えるし・・・、いや、イカンイカン！



おや、あれに見えるは、志那の浜の象徴、<sup>れんかいじ</sup>蓮海寺。  
お堂でひと休みしながら、<sup>からすまじょう</sup>優美な烏丸城の姿を眺めることとしよう。



・・・ん??



※ここに描かれている天守閣はフィクションです。  
江戸時代の箕津にはこのような天守閣は実在しません。



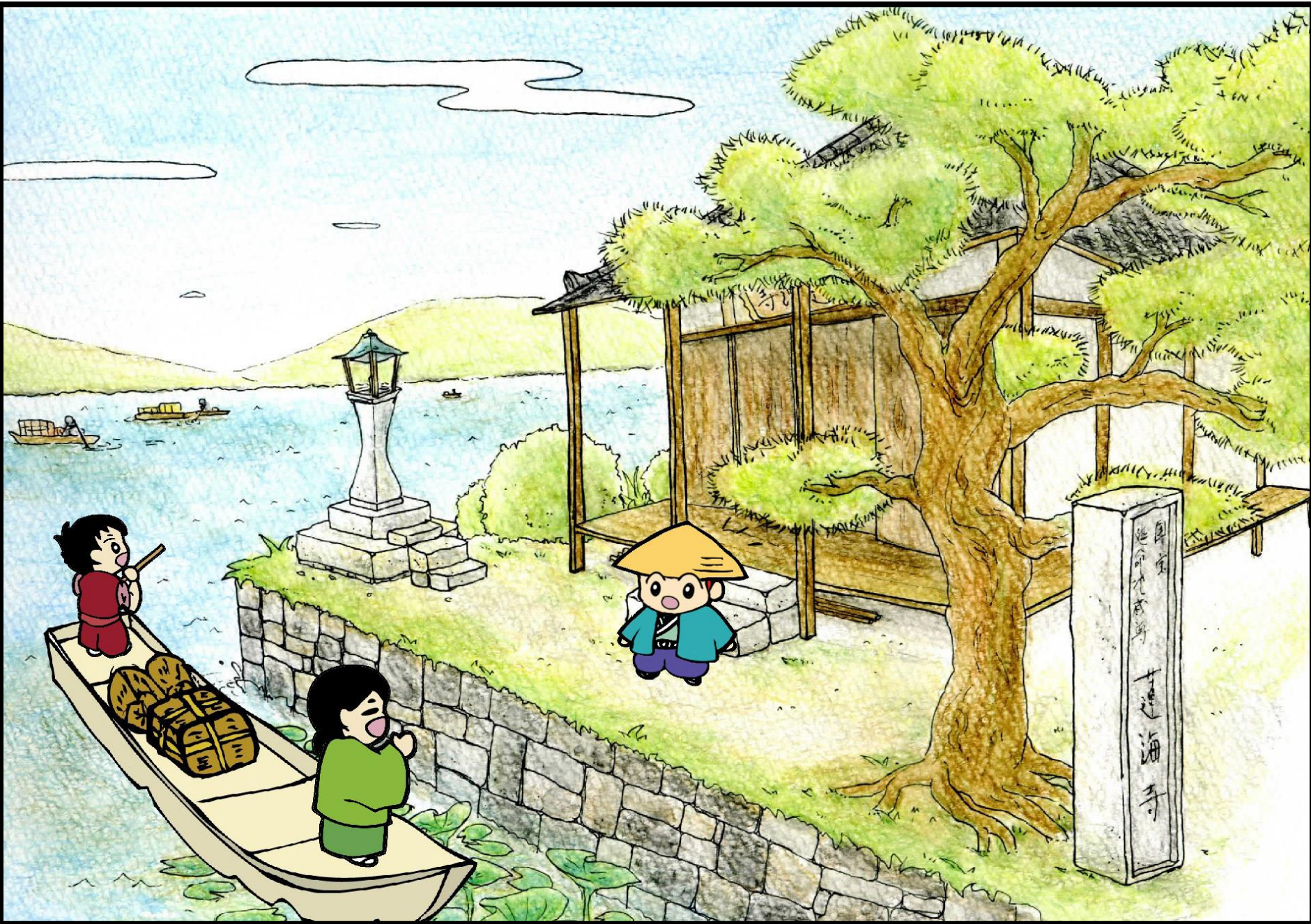
ええ～！なんてことだ！  
あんなに背の高い火の見櫓があるから、  
烏丸城の姿が隠れてしまってるじゃないか！



烏丸城だけじゃない、  
びわ湖や比良<sup>ひら</sup>比叡<sup>ひえい</sup>の山並みを一目見ようと  
やってきた旅人たちに申し訳ないことこの上なし！



…はてさて、ぼくはどうすれば…  
ん？誰かの呼ぶ声が聞こえたような…



國家  
紀念地  
甘連海亭



やっぱりそうだ！  
まんじゅうの考案者として有名なたび丸様！  
わたしはゲンゴロウ、  
湖上で渡しをいとなんでおりやす。  
でもって、こいつが…



見習いのケインと申します。  
以後、お見知りおきを！



ところで、浮かないご様子ですが、  
何かお困りごとでも？



いや、実はね、かくかくしかじか…



そういうことでしたか、  
お気持ちよ〜くわかります。



ん？ ケイン、どうした！？  
…うわーっ！！





## ■草津市景観計画とは？

自然、歴史、都市などの景観の特性を活かすとともに、各景観が互いに調和の取れたまちづくり（景観まちづくり）を推進するためのルールなどを定めています。

・市民、事業者、市が主体となって協力しながら、良好な景観づくりに取り組み、「ふるさと草津の心」を育みます。

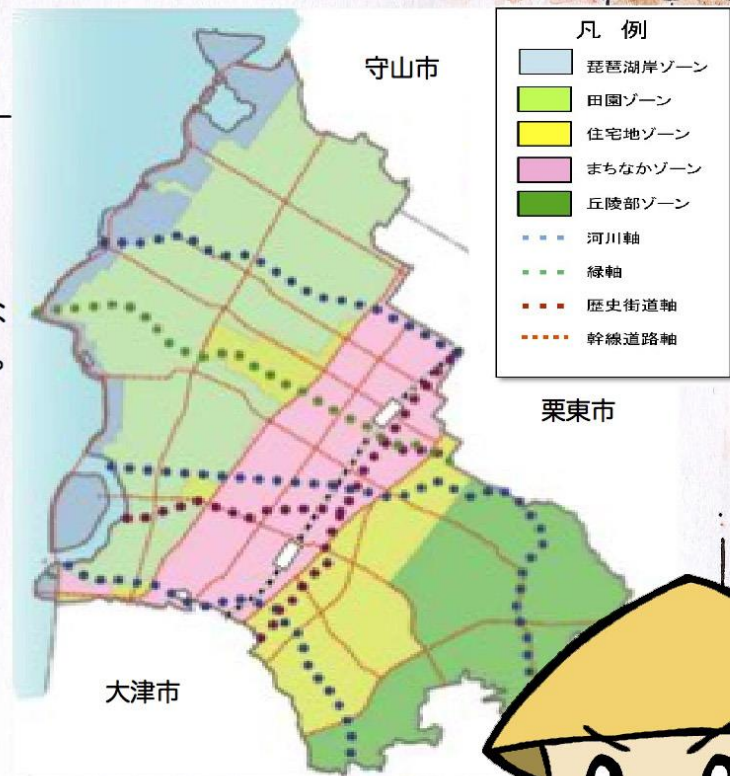
自然

『ふるさと草津の心』

歴史

都市

ふるさとの景観、そしてこれを愛する人々を大切にする君の想いは、この「草津市景観計画」が守ってくれるぞ！



## どんなルールがあるの？

良好な景観づくりのためのルールとして、建築物などの高さや屋根などの形態、外壁の色彩、敷地内の緑化などに関する『景観形成基準』を定めています。

特に大規模建築物は、事前に届出を受けて、計画内容が基準に適合しているか審査します。

### 大規模建築物

◆まちなかゾーン、住宅地ゾーン、丘陵部ゾーン

(1)建築物で、高さ13メートル以上または4階建以上または延床面積300㎡以上のもの

(2)工作物で、高さ13メートル以上のもの

◆田園ゾーン

建築物、工作物で、高さ10メートル以上のもの

◆琵琶湖岸景観形成重点地区  
および伝統的沿道景観重点地区  
10㎡以上の建築物 ほか

届出審査

### 主な景観形成基準の概要

(形態) 勾配屋根の多い地域では、原則として勾配屋根を設けること。

(色彩) けばけばしい色彩は使わず、定められた範囲の色彩とすること。

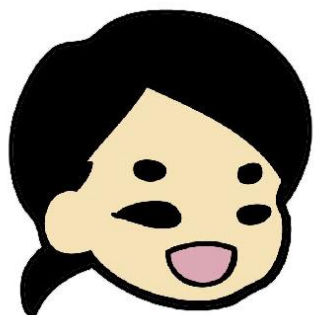
(緑化) 道路に面する部分の緑化に努めること。

(高さ) 田園ゾーンおよび琵琶湖岸景観形成重点地区では、建築物および工作物の高さは13メートル以下とすること。

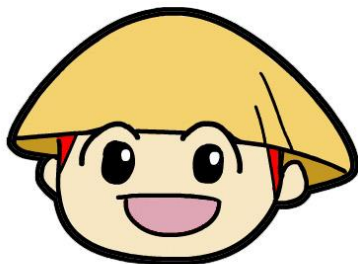
つまり、琵琶湖岸景観形成重点地区と田園ゾーンで、今後、建築物や工作物を建てる時は、高さを13メートル以下にしないといけないのです。



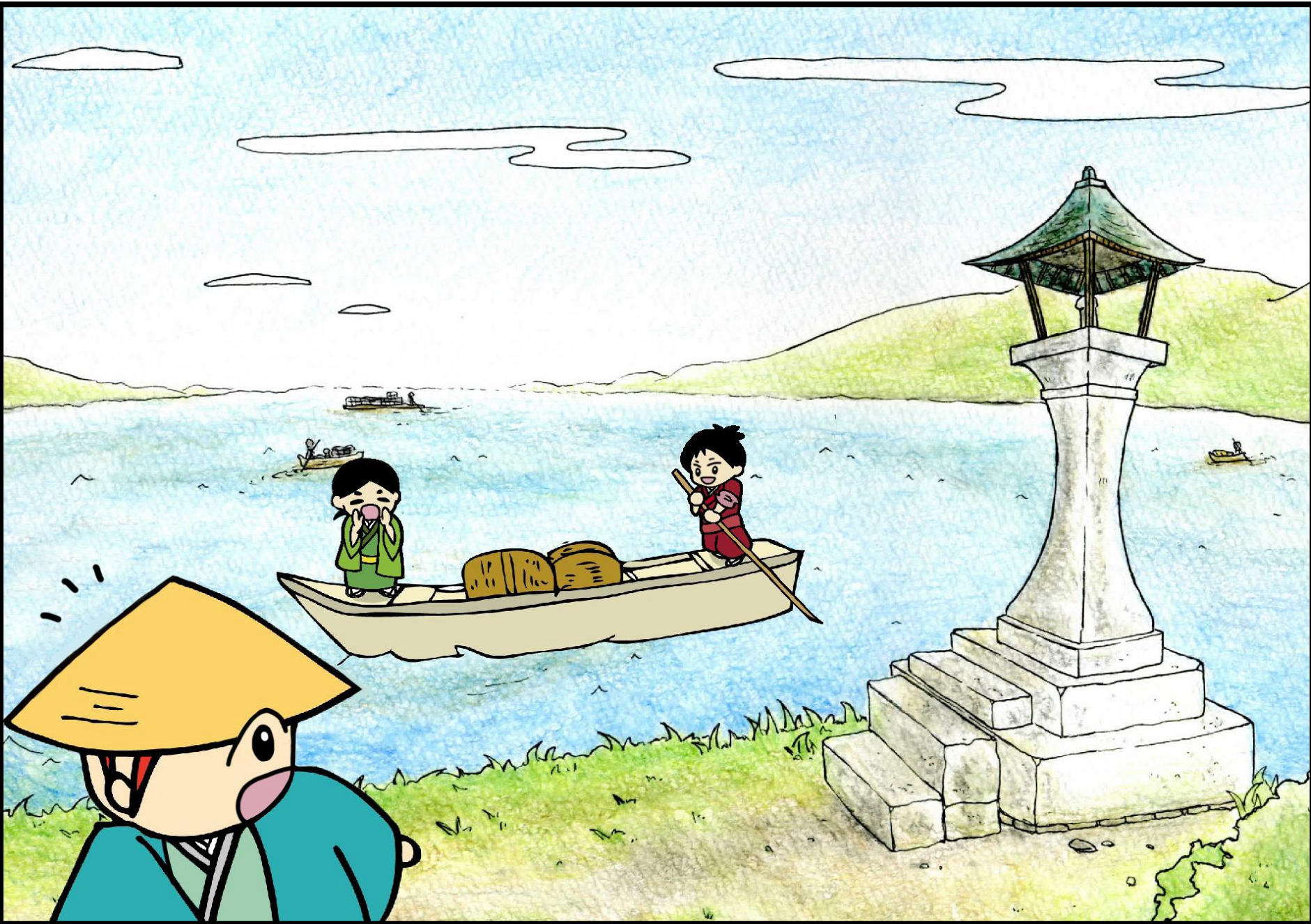
思わず気が高ぶってしまいましたか、  
少しはお役にたてましたか？  
ゲンゴロウさんもわたしも、ふるさと草津の  
景観を想う気持ちは、だれにも負けませんよ。

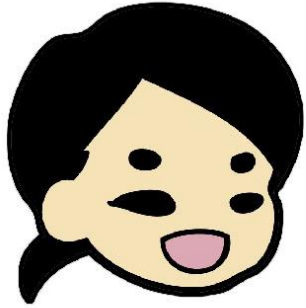


さて、そろそろ行くことにします。  
それでは、また！



知らないことばかりだったから、  
とても勉強になったよ。  
ぼくもひとつ、草津の景観づくりについて  
考えてみようかな。  
ありがとう！





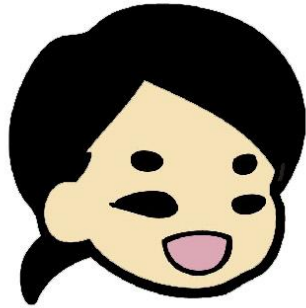
肝心なことを言い忘れてましたー！  
あの火の見櫓、ずいぶん古くて危ないってことで、  
明日から建替え工事が始まるんです！  
背の高さは13メートル以下に縮まりますから、  
眺めもウンとよくなりますよ～！



ということは・・・  
烏丸城やびわ湖、比良比叡の山並みなどなど、  
美しい眺めが守られるんだな！  
これでー安心！



よ～し、善は急げだ！  
家に帰って、さっそく景観づくりの研究だ！



まさか、  
あの有名なたび丸さんに会えるなんてなあ。  
帰ったら、  
おっとうやおっかあにも聞かせてあげよう。  
そして…



そして、愛しのお藤さんですね！！  
明日は、アオバナ畑でデートだし、  
いい話題ができましたね！



そうだ、お藤も驚くだろうな～。  
…って、どうしておまえがデートの予定を  
知ってるんだよっ！！

# くさつ博士のホントの歴史

対岸に比叡の山や坂本を望む志那。現在は湖岸にさざなみ街道が通り、かつての志那の浜の風景は一転していますが、蓮海寺はかつて琵琶湖のほとりに位置していました。蓮海寺の縁起を記した『地蔵堂縁起』によると、天台宗を開いた最澄が、湖北の木之本の地蔵を作ったときの木材で地蔵菩薩を作ったのが本尊であるとされています。この木造地蔵菩薩立像は、鎌倉末期の作で、重要文化財に指定されています。蓮海寺の傍には、ここ志那の出身といわれる山崎宗鑑が詠んだ「元朝や 見るものにせん 不二の山」の句碑くひが建っています。

さらに、この志那の浜から少し内陸に入ったところに「芦浦観音寺」があります。その景観は、寺院でありながら濠が周囲ごうに巡らされ、境内へ入る門は武家の居館きょかんを思わせるような設えしつらです。濠をわたり境内に入ると、入母屋造りの阿弥陀堂や永原御殿を移したとされる書院があります。

この芦浦観音寺は、織田信長、豊臣秀吉に重用され、琵琶湖の湖上水運を掌握し、船奉行として権勢をふるった時期がありました。江戸時代初期には、幕府の代官にも任じられていました。

